

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672400062		
法人名	社会福祉法人 太陽福祉会		
事業所名	グループホーム いきがい		
所在地	京都府京丹後市久美浜町湊宮467-60		
自己評価作成日	平成23年6月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2672400062&SCD=320&PCD=26
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成 23年 7月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型事業として地域との関わりを力を入れている。一昨年までは、地域との関わりや活動があまり活発ではなかったが、昨年より精力的に活動をしている。今年は昨年より更に活動を増やし、関わりを密にしている。経営母体である法人本部と同敷地内で運営しているメリットを活かし、日常的に協力しながらご利用者様やご家族様が安心、満足していただけるサービスが提供できるよう努めている。自然が豊かな環境にあるため、その特徴を生かしたサービスを提供したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、利用者が入居後も家族や地域との繋がりや関係を大切にしながら、自宅で暮らすのと同じような日常生活が継続できるよう支援しています。地域の浜の掃除に利用者と共に参加したり、地域の子どもたちと七夕やクリスマス、芋掘りなど様々な交流の機会を持っています。また、家族の来訪が頻繁で関係が継続する中で利用者の日々の生活が落ち着きを取り戻し、利用者の安心感へと繋がっています。広いリビングを囲んで居室が配置され、食事の支度や共用部分の清掃、洗濯など利用者は役割を持って出来る事に携わっています。また、管理者の集まりから生まれた事業所間の交換研修に積極的に取り組み、職員の良い勉強の機会となり日々のケアに反映されています。職員は利用者の日常生活を大切にしながら寄り添い、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年度と比較しても少しずつ、地域密着型サービスの理解を深めてきている。	法人理念のもとに、毎年度策定する事業計画の中で地域密着を謳い活動目標を決め支援しています。理念にそった支援として、利用者が普通に日常生活が送れる環境を提供できるよう、毎月の経営会議や職員会議で話し合い、振り返る機会を持ちながら支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	前年度より交流機会を増やしており、今年度も更に機会を増やす予定。	地域の浜の掃除に利用者と共に参加しています。地区の子どもたちと一緒にホームの畑の手入れや七夕飾り、節分、クリスマスなど行事ごとに交流の機会を持っています。今後は地域の子もたちと食事を共にする機会を持ちたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。前年度に認知症サポーター養成講座の開催を予定していたが、開催できていない。今年度の実施は未定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役立てている。	運営推進会議は、利用者や家族、地域住民代表、市職員などの参加を得て開催しています。ホームの活動予定や行事の報告、地域問題などを話し合い、参加者からは地域行事の情報を得たり、意見やアドバイスを貰っています。今後、さらに有意義な会議となるよう検討しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催で隔月に地域密着型事業所の意見交換会が開催されている。それを機会に市や、他の事業所と情報交換、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市職員は運営推進会議に参加しており、法律関係など分からない事があれば、電話などで問い合わせるなど、日頃から協力関係作りに努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が必要な事例はない。職員全員での理解は不十分と考えられ、定期的な勉強が必要だと考えている。	身体拘束についての研修に参加したり、毎月勉強会を行っています。拘束に繋がる言動が見られた場合は、その都度注意を促し、職員が理解できるよう努めています。玄関の鍵は掛けておらず見守りながら寄り添うケアに取り組んでいます。今後は職員の理解がより深まるよう事例を挙げた勉強会等に取り組むと考えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料配布などの方法での学習機会を設けている。		

グループホーム いきがい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度が必要な入居者がなく、前回の学習機会から、かなりの時間が経過している。今回の評価をきっかけに学習機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解や納得をしていただき、確認しながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様からは日常的に、ご家族様からは運営推進会議、来園時などに収集し反映に努めている。	家族の面会時などに意見や要望が無いか聞いています。出された意見や要望はホームの新聞で家族に報告しています。「職員の名前が分からない」という意見が出され、ホームの「いきがい新聞」に職員の写真と名前を載せるなど、速やかな対応を心がけています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に聞く機会を設け、反映している。	管理者が同席する個人面談の機会が設けられ職員の意見や要望を聞く機会となっています。又、毎月の職員会議の際や職員が取り組みたい事などは、連絡ノートを活用して様々な意見が出されています。出された意見は職員間で話し合い反映できるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	回数は少ないが、実施し拡大できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の意見交換会や、職員の交換研修で交流機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けている方もあるが、そうでない方もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築けている方もあるが、そうでない方もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全ての方についてではないが、努めている。	友人が面会に訪れたり、家族の付き添いで行きつけの美容院へ通っています。知人に電話を掛ける時などには取り継ぎなどを支援しています。以前住んでいた自宅を見に行ったり、通っていたスーパーに買い物に行き知人と出会って立ち話をされるなど、様々な関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。(最近は、このようなケースが少ないが、相談などがあれば対応するつもりはある。)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、ヒントを見つけることが多く、ご本人様がはっきりと返答押される事は少ない。過去の情報、ご家族様方よりの意見も参考にしている。	日常会話の中から思いや希望を聞いています。思いを伝えることが困難な方には、家族から情報を得たり、利用者の日々の表情やその時々言葉を拾いながら思いを汲み取り、職員間で話し合い意向の把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様や、ご家族様からの希望を確認したり、職場の会議で情報の収集、話し合いを行い計画を作成している。	利用者や家族の思いを反映した介護計画を作成しています。3か月ごとにモニタリングを行い、6か月ごとに見直しています。見直しの際にはサービス担当者会議を開催し、利用者や家族の意向を基に、職員や看護師の意見を集約し一人ひとりの現状に合わせた見直しを行っています。	職員一人ひとりが個々の利用者の介護計画の把握が十分にでき、ケアの統一がしやすいよう記録等の工夫されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートなども用いて活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

グループホーム いきがい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援するつもりはあるが、実践は少ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝えていきます。受診は家族対応となっておりますが、職員が付き添い利用者の状況を伝えていきます。又、必要時訪問歯科の往診や、場合によっては併設施設の往診医に相談を行う事も可能で、緊急時や夜間も併設施設の看護師に相談できる体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	入居時に看取りについてホームでできる事、できない事の説明を行い同意を得ています。併設施設の看護師の協力を得ながら、家族や主治医等の関係者で今後の方針について話し合いを重ね支援しています。今後は法人のターミナル会議などでメンタル面での課題に取り組み職員の不安の解消に努めていきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を行っており身に付けているが、定期的な復習が必要な状態。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の訓練は行っている。地域との協力体制については、法人として地域と協議を行う予定。	年2回消防署の指導の下、火元を設定して応援が駆け付けるまでの所要時間のシミュレーションなどを行っています。訓練の中で居室に在室は赤札、避難済は白札を下げ、利用者の避難誘導がスムーズに行えるよう工夫しています。今後は運営推進会議で訓練を実施することを伝えて参加依頼の声掛けを行い、また、ホームを避難場所として提供する用意がある事等、地域の方と話し合う予定となっております。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。	職員は利用者が目上の方であり、お客様であることを常に意識しながら対応するよう心掛けています。職員に不適切な対応が見られた場合は注意を促し、職員はなぜそのような対応になったのか自身を振り返るなど、プライバシーへの理解が深まるよう取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には皆様の都合に合わせて時間をすごしているが、事業所の都合になる日もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。	食材は業者に発注していますが、時には利用者と一緒に買い物に行き食事を作ることもあります。献立から後片付けまでの一連の作業の中で、野菜の下処理や盛り付け、洗い物など、出来る事に関して貰っています。外食や誕生日には本人希望の「ごちそう」を提供したり、一緒にサンドイッチなどを作って出かけるなど食事が楽しい物となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大まかな状態ではあるが支援できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		

グループホーム いきがい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っている。	車椅子の利用者を含む殆どの利用者が排泄は自立されており、声掛けや支援が必要な利用者については表情や仕草などのサインを見逃すことが無いよう、その方に合わせた支援に努めています。利用者が自信を持ち続けられるよう個々の方に合わせた支援を行い、排泄の自立が継続できるよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行っているが、事業所の都合になっている時もある。	入浴は午後からとなっていますが、希望があれば可能な限り柔軟に時間の変更に対応しています。入浴を拒まれる方には声のかけ方やスタッフの交代など工夫しながら入って貰えるよう支援しています。仲が良い方同士で入られたり、ゆず湯やしょうぶ湯など楽しく入って貰えるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。しかし、希望を伺うが意見が少なく実施機会が少ない。	日常的な散歩や、お茶を持って外に気分転換などに出かけています。季節ごとの花見や紅葉狩り、サンドイッチと一緒に作って水族館へ出かけたり、また、夜間のドライブで蛍を見に行く事もあります。家族と一緒に買い物へ出かける方もあり、出掛ける機会が多く持てるよう支援しています。	

グループホーム いきがい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ていないが、買い物などの機会があれば、支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殺風景な室内にならないよう努めている。	ホームには行事の写真や利用者と共に作成した作品、その日の献立が書かれたホワイトボード、切り絵で作られた利用者が見やすいカレンダーなどが壁に掛けられ、温かい雰囲気作りを心がけています。リビングには利用者が居心地良く過ごせるようテーブルやソファが配置され、畳コーナーや広い共用部分にもベンチなどを配置して、一人になれる場所の確保にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用のテーブル、椅子のほかにソファや畳台などを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な範囲で入居時に、ご本人様の使い慣れた家具や調度品などを持って来ていただいている。	入居時に使い慣れた品を持って来てもらうように伝えています。調度品やテレビ、家族の写真、電気スタンド、化粧品などを持ち込まれ、その人らしい部屋作りがなされています。居室が分かりにくい方には大きい表札をかけて居室が分かり易いよう配慮し、安心して過ごして貰えるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不必要な物は置かないようにしている。		